

令和 8 年度小松市立向本折小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・ 8 月提出）	取組の成果と課題（年度末・ 3 月提出）
生徒指導・教育相談	<あたたかくやさしい集団をつくる>	・教職員アンケートの「どのクラスにも学習規律が定着し、主体的に学びに向かう集団である」には60%が当てはまる、40%がどちらかと言えば当てはまるという回答があった。 ・児童会担当と話し合い、学期末に児童が主体的に活動できるような企画（NEW FRIENDS FESTIVAL）を考えて実施することができた・教職員アンケートの「児童の実態把握の共通理解を図り、有効な手立てや対策を考えている」では、60%が当てはまる、40%がどちらかと言えば当てはまるという回答があった。児童の細かな見取り、共通理解は継続する。日々の見取りによる困っている児童の発見に努め教育相談と連携し専門相談を行い、継続的な支援を行う。	
	・4月の学校生活オリエンテーションは全校一斉に行い、どのクラスにも学習規律が定着し、主体的に学びに向かう集団にする。 ・児童会と連携して、学期ごとに、自己肯定感、自己有用感が高まるようにする取組を行い、あたたかい集団にする。 ・不登校を含め、学校生活に不安のある児童の実態把握と教職員との共通理解を図り、有効な手立や対策を考える。		
児童会	<児童の主体性を高める>	・教職員アンケート「上学年が活躍する場を設け、下学年の憧れにつながるようにしている」の項目では、教員のA評価53.3%とB評価46.7%と肯定的な回答が100%だった。今後は、上学年の活躍を児童に積極的に紹介したり、その頑張りやよさを教師側が意図的に価値づけたりすることで、下学年の憧れにつなげていくが必要である。 ・3学期までに、さざなみ議会を中心とした基盤づくりを進める。また、他学年にも議会の様子を見学する機会を設け、活動への理解と憧れを育てていく。 ・「あいさつヒーロー」の取組を通して、低学年でも進んであいさつを返す児童が増えてきている。今後も継続して取り組み、学校全体へ広げていく。	
	・授業や学校行事などで児童が主体的に活動を計画・実施できるように支援し、児童の主体性を高める。 ・児童会活動では、上学年が活躍できる場をつくり、下学年があこがれる上学年となれるようにする。		
道徳教育	<「友情、信頼」を重点目標とし、周りの人を大切にしようとする心を育む>	・重点目標に関する教職員アンケートの肯定的回答は92.9%であった。教室に教材のふり返りを掲示できていない学年があるため、夏季休業中に作成するように呼びかける。 ・授業実践に関する教職員アンケートの肯定的回答が83.3%であった。2学期以降もゲストティーチャーを招聘した授業を実践できるように提案する。 ・7月に道徳だよりを作成し、保護者に対して1・3年生の授業実践を発信した。今後は、他学年の授業実践も発信し、保護者と学校が一体となって「友情・信頼」への意識を高めていけるようにする。	
	・重点目標と重点目標に関わる教材のふり返りを教室に掲示し、周りの人を大切にしようとする意識を高める。 ・地域の方、保護者、外部人材と連携した授業実践を行う。 ・学期に一度、重点目標に関わる取り組みを通信で保護者に発信し、保護者ととともに児童の心を育てていく。		
読書教育	<読書の質の向上を図る>	・全校児童の約5割が、選書の目標冊数を読みブックマイスターとなった。2学期は、図書委員会が読書に関する啓発動画、おすすめの本の紹介ポスター等を作成し、目標指数の達成につなげる。	
	・全校児童の8割が、「本のとびら」に紹介されている本の中から各学年の目標冊数を読み、読書への関心を高め、選書の幅を広げる。		
人権教育	<自分と他者を大切にしようとする心を育み、居心地のよい学校づくりに努める>	・遠足や児童会行事後にミニレターの取組を実施し、ふり返りを交流したり、感謝の気持ちを伝えあったりすることができた。児童アンケートの肯定的回答は、92.3%だった。 ・道徳の学習や学級活動を通して、児童の自己肯定感を高めることができた。今後も、継続して取組を行っていく。 ・年度はじめに外国にルーツを持つ児童の生活習慣や学校での過ごし方等についての情報共有を行った。また、短いスパンで児童理解の会やこども応援会議（校内特別支援委員会）を設定し、気になる児童に関する情報を共有している。2学期以降も継続していく。	
	・異学年で取り組む行事後に、ミニレター形式で振り返りを交流する。 ・道徳や学級活動で、自分や友だちの良いところ見つけを行うことを通して、自己肯定感を高めたり、他者の良さに気付いたりできるようにする。 ・校内特別支援委員会と連携を図り、外国ルーツの児童に対する理解を深める職員研修を行う。		
保健健康教育	<すこやかな身体を育む>	・教員アンケートは、肯定的な回答100%であった。普段の授業で、走る運動を取り入れている。スポチャレは2学期以降実施予定である。 ・児童アンケート「学年に応じた時刻にねることができている」の項目では、肯定的な回答低学年80.3%中学年65.7%高学年54.8%である。高学年になるほど寝る時間を確保することが難しく、長子が多い学年ほど睡眠時刻を守ることができ、兄弟がいる家庭では就寝時刻が遅くなる傾向がある。家庭環境が大きく関係するため睡眠の重要性を家庭・児童に向けて2学期に学校保健委員会として発信する予定である。今取り組んでいる家庭学習調べや生活習慣調べ（低学年）は継続し規則正しい生活習慣を身につけさせたい。	
	・前年度のスポーツテストの結果で課題となった粘り強さ・すばやさの向上のため、体育の準備運動やあすチャレの中でそれらを向上する運動を取り入れる。 ・2学期の学校保健委員会で「睡眠」をテーマに学習し、学校と家庭が連携して行える取り組みをする。		
情報教育	<ICT機器を活用して、教科の学びを深める>	・学習用端末の活用については肯定的な回答が92.9%であった。実践の共有については、肯定的回答が92.9%であったが「やや当てはまる」が57.1%だった。今後は、若プロの機会を利用したり、共有ドライブに情報を入れたりして、授業でのICTの効果的な利用について研修を深めていく。 ・プログラミングの思考を養う授業実践については、「当てはまる」が27.3%、「やや当てはまる」が63.6%だった。2学期以降に各学年でプログラミングを取り入れた学習が設定されているため、「当てはまる」の割合が高くなると考える。	
	・年間指導計画やカリキュラムマップを基に、学習用端末が効果的に利用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。 ・ICT機器を活用した授業実践を定期的に共有し、児童の学びを深める授業に繋げる。 ・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。		
家庭・地域の連携	<開かれた学校づくりの推進>	・地域人材の活用については教職員アンケートでは肯定的な回答が100%であった。1学期にはサツマイモ苗植え（2年）、トマトハウス見学（3年）、トマト栽培（5年）、クラブ活動（生け花、お茶）等が行われている。2学期以降も継続して活用していく予定をしている。 ・保護者アンケート「学校からのお便りや情報は、適切でわかりやすい」の項目では肯定的な回答が97.3%であった。今後も適切に情報発信をしていく。	
	・授業や特別活動において地域人材を活用し、学習活動の充実を図る。（総合的な学習の時間、道徳、クラブ活動など） ・各種便りやHP、メール配信等で学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。		

学校関係者評価	【中間】 ・今年度「主体性」を大切にしていることがよくわかる。アンケート結果の数値が高い中でも「あてはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の割合を分析するとよい。教職員が自信をもって達成しているという状態がよい。 ・学校の先生が大変だと子供たちに影響が出る。 ・子供たちの普段の言葉遣いが気になることがある。家庭でも気になる言葉が聞かれることがある。いろいろな言葉を友達の中で使っているようだ。学級の友達関係がよいと少なくなるのかと思うので学級経営をがんばってほしい。
---------	--